

中学校区におけるめざす子ども像

人と人との交わり、つながりの中で、【人間性豊かな心】【たくましく生きる力】をもつ子ども ～明るく元気・自ら学ぶ・仲良く助け合う～

令和8年度 重点目標 ①「問い」と「ふりかえり」で学びを循環させる授業づくり ～考えを言葉にできることもの育成～ ②安心できる場づくりを土台にした学び(重点1年生) ③チーム担当制による「こどもが主語」の学年づくり(重点6年生) ④中学校への接続を意識した学び(重点6年生) ◎「学びをつなぐ柱」家庭学習の定着
---

<p><b>〈確かな学びの現状〉</b> 「授業が分かりやすい」「学ぶことが楽しい」と感じている児童が学校アンケートで9割以上と高く、聞く姿勢も含め、学習の基盤は安定している。一方で、「自ら考え解決する」「振り返りで整理する」など主体的な学びにおいては、学校アンケートの結果からも「ややあてはまる」と回答している児童が多く、自信をもって取り組んでいる段階には至っていない。また、読書習慣の低下が見られ、読書力や読み取り、表現力の課題が学力に影響している。 ICT活用は定着しているが、学びを深めていくことへと結びつけていくには課題がある。 さらに、対話的な学びは、話し合っている形で定着しているものの、思考の深まりや自分の考えの形成に結びつけられるよう指導の工夫が求められる。加えて、「わかる」から「できる」「使える」への学びの転換を図ることが必要と考えている。そのため、言葉の力を基盤として思考を深め、自ら学びを進める力の育成が課題となっている。</p>	<p><b>〈豊かな心・健やかな体の現状〉</b> 児童・保護者ともに、学校アンケートの結果から「学校を安心できる場」と感じており、友だちと助け合う関係性も含め、心理的安全性の高い環境が整っている。一方で、「あいさつ」はできていないものの主体性や質に課題があり、生活全体での定着が十分とはいえない。 本校の課題となっていた「粘り強さや挑戦する力」は育ちつつあるが、過程を振り返り言語化する力の充実が求められる。加えて相手意識をもった表現や自ら行動する力を、日常生活場面の中で育てていく必要がある。さらに、学校・家庭・地域が連携し、生活全体の中で社会性や規範意識を高めていくことが重要であると考えている。 他には、友だちとの関わりや励まし合いの中で挑戦する姿が見られるなど、関係性を基盤とした成長がみられてきている。 運動や生活習慣については、実態や学校アンケートの結果からは概ね良好であり、心身の健康を支える基盤は維持されている。朝食の喫食率も高く家庭の協力が本校の支えとなっている。したがって生活習慣は概ね安定しており、学びの基盤は整っている現状である。</p>
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし) (○目標達成 △あと一歩 ×行わなかった または成果なし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	言葉の力を基盤とした主体的・対話的で深い学びの推進	●「問い」と「ふりかえり」を軸とした主体的な学びの推進 (見通しをもって学習に取り組み、「何が分かったのか」「どのように考えたのか」「次にどうつなげるか」を自分の言葉で整理し、学びを深めていくこともの育成)	① 児童の「問い」および「ふりかえり」の現物共有(学年・校内) ② 学校アンケート「授業はわかりやすい」「学ぶことが楽しい」「授業で学んだことを振り返り、自分の考えを整理できる」肯定的評価80%以上	①現物共有 ②学校アンケート	①学期ごと ②学年末			
			●「ふりかえり」を通して考えを表現する言語活動の充実 (読み取ったことや考えたことをまとめたり、比較したりしながら、相手に伝わるように説明・記述する力を高めることもの育成)	① ノートやワークシートの「ふりかえり」の内容が、「問い」との関連・説明・思いの記述となっている(現物共有)(70%以上) ②学校アンケート「ふりかえりの中でわかったこと、何がわからないのか整理できるようになった(4～6年生)」「自分の考えをまとめたり伝えたりできる」肯定的評価80%以上	①研修の振り返り(教職員) ①-1教職員学校アンケート ②学校アンケート	①学期ごと ①-1 ②学年末			
● 探究的な学びとつながる読書活動の推進 (課題解決に向けて本や資料を活用し、必要な情報を取り出し、自分の考えと結び付けながら学びを広げていくこともの育成)	① 調べ学習や課題解決における図書・資料活用の実施[各学期1回以上、調べ学習における図書・資料活用の実施(年間3回以上)] ② 読書活動の取組の共有(読み聞かせ含む) ③ 学校アンケート「進んで本を読んでいる」「読み聞かせをとおして本に興味をもった」肯定的評価80%以上(向上をめざす)		①②実施状況 ③学校アンケート	①学期ごと ②③学期末					
確かな学び	学校群および幼保小連携による学びの連続性を踏まえた授業改善の推進	★ 学校群における授業交流と学びの共有の推進 (中学校区で授業を参観し合い、学び方や指導方法を共有することで、発達段階に応じた一貫性のある学びを実現する取組)  ●幼保小連携による学びの接続を意識した指導の充実 (幼児期の育ちを踏まえ、「話を聞く」「思いを伝える」などの力を大切にしながら、小学校での学びへと円滑につなげていく取組)	① 学校群での授業参観・研究交流の実施(年間2回以上) ② 交流内容の校内共有および授業改善への反映 ③ 6年生と中学生との交流(オンラインを含む)を行う	①②実施状況 ③学校アンケート	年度末				
			① 幼保小連携の交流(2園年間2回以上) ② 接続を意識した授業の実践および情報共有 ③学校アンケート「安心して学校生活が送れた」「年長児にわかるように伝えた」肯定評価85%以上	①②実施状況 ③学校アンケート	年度末				
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	相手意識をもった表現と伝わるあいさつの育成	● 相手意識をもった『伝わるあいさつ』の指導の充実 (相手を見て声を届ける、場面に応じた言葉を選ぶなど、相手に思いが伝わるあいさつができることもの育成)	① 日常生活におけるあいさつの見取りおよび状況共有 ② 学校アンケート「自分からあいさつをしている」肯定的評価90%以上かつ「あてはまる」割合の向上	①実態把握(児童会あいさつ含む) ②学校アンケート	年度末			
			● 対話を通して思いを伝え合う表現力の育成 (自分の考えを伝えるだけでなく、相手の思いを受け止めながら、よりよい関係を築いていくこともの育成)	① 生活や授業における活動観察 ② 学校アンケート「自分の思いを伝えるとき、相手の思いも大切にしている」肯定的評価90%以上	①観察 ②学校アンケート	年度末			
		心身の調和を保つ	基本的な生活習慣の定着と心身の健康の保持増進	家庭と連携した基本的な生活習慣の定着 (朝食・睡眠・生活リズムを整え、心身ともに安定した状態で学校生活を送ることができることもの育成)	① 家庭との連携による生活習慣の把握と指導 ② 学校アンケート「学校のある日は朝食をとっている」肯定的評価95%以上 「自分の生活リズムは整っている」「自分の気持ちは落ち着いていることが多い」肯定評価85%	①生活アンケート ②学校アンケート	年度末		
日常的に体を動かす運動習慣の推進 (運動に親しみ、継続して体を動かすことを通して、体力や健康意識を高めることもの育成)	① 体力向上に関する取組の実施 ② 学校アンケート「体を動かしたり運動をしたりすることが好き」肯定的評価90%以上			①実施状況 ②学校アンケート	年度末				
挑戦とふりかえりをおし粘り強く取り組む態度の育成 (うまくいかないことがあってもあきらめず、経験を振り返りながら次に生かそうとすることもの育成)	①学校アンケート「励まして困難なことにも挑戦できるようになった」「粘り強く取り組もうとしている」「もう一度挑戦しようと思えるようになった」肯定的評価90%以上			①学校アンケート	年度末				
地域協働	地域協働	家庭・地域と連携した学びと育ちを支える教育活動の推進	地域資源を活用した体験的な学びの充実 (地域の人・もの・ことに関わる体験を通して、学びを深めるとともに地域への理解や愛着を育てる取組)	① 地域・外部人材を活用した学習の実施(各学年年間1回以上) ② 活動内容のまとめと共有(授業参観時に招待)	実施状況	年度末			
			●家庭と連携した家庭学習の習慣化と学びの充実 (家庭学習のてびき(仮称)を家庭と共有しながら、日常的に学習に取り組む習慣を身につけるとともに、学んだことを振り返り次の学びにつなげていくこともの育成)	学校アンケート(児童)「家庭で学習する習慣が身についている」肯定的評価80%以上 (保護者)「家庭学習を自主的に行うようになった」肯定的評価80%以上	①学校アンケート	年度末			
			家庭・地域と連携した教育活動と情報発信の推進 (学校の取組や子どもたちの学びの様子を積極的に発信し、家庭・地域とともに子どもを育てていく取組)	① 学校ホームページ・学校だより等による情報発信 ② 学校アンケート(保護者)「学校の取組がわかりやすい」肯定的評価80%以上	①実施状況 ②学校アンケート	年度末			

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)
-----------	-----------------